

第21回がん診療連携拠点病院等の指定に関する検討会	参考資料
令和4年3月16日～17日	3

都道府県の推薦について

都道府県提出資料

富山県

富山県がんの医療圏の概要

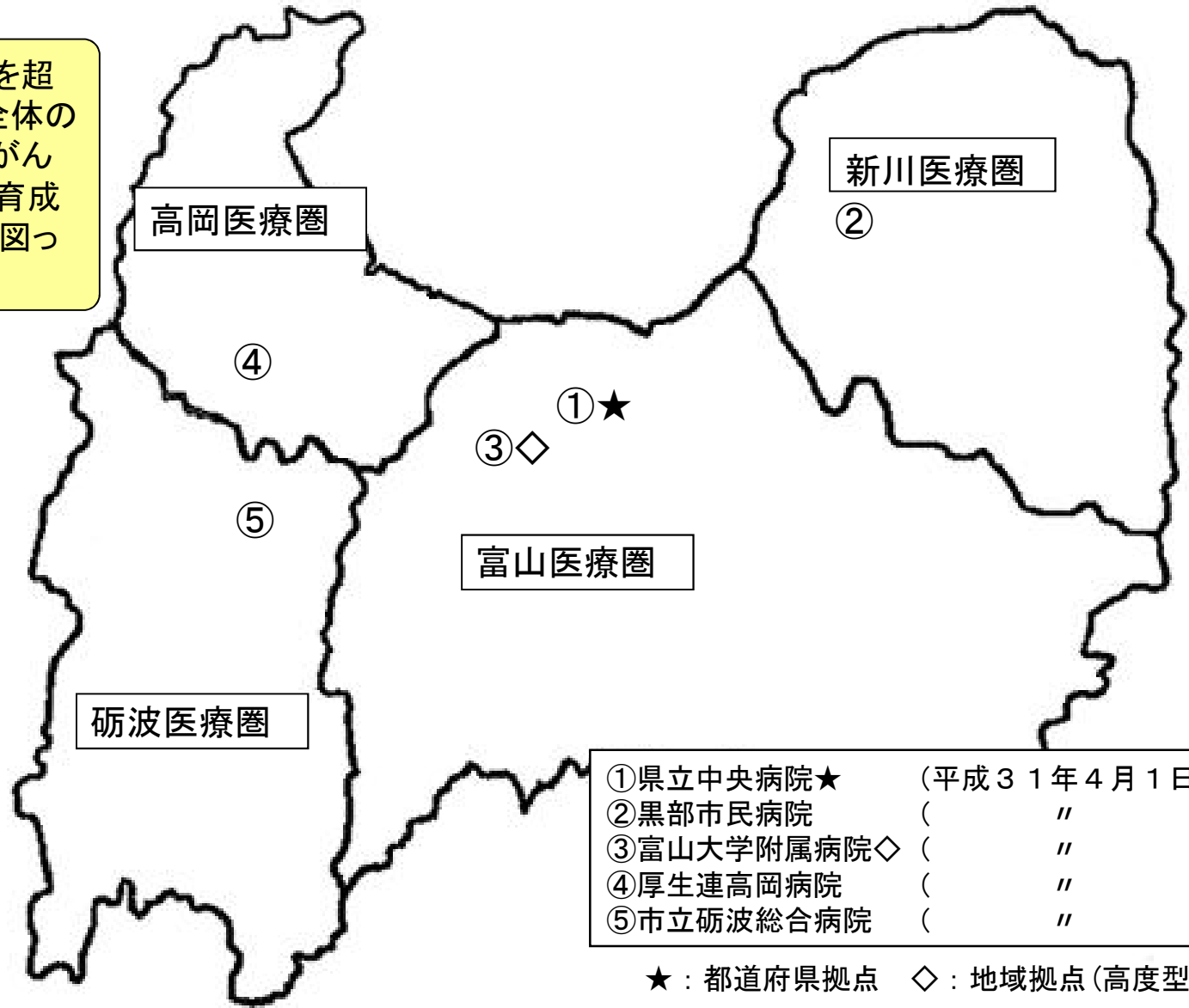
令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
新川	924	113,766	11.1%	123.12	14	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
富山	1,844	491,008	47.8%	266.27	50	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
高岡	549	298,558	29.1%	543.82	26	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
砺波	930	123,635	12.0%	132.94	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	4,247	1,026,967	100.0%	241.81	106	4	0	1	5	0	0	0	0	0	0

富山県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2

5つの拠点病院が圏域を超えて相互に連携し、県全体のがん医療の均てん化、がん医療水準の強化、人材育成及び診療設備の充実を図っている。



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
 ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・「類型」については、★：都道府県拠点、◇：地域拠点(高度型)で表示

医療圏名	累計	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線 治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに 対する新規診療依 頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療の 割合(%) 2割程度	相談支援 センター 相談件数 (年間)
				年間入院 がん患者 延べ数	年間入院患 者延べ数に 占めるがん 患者の割合 (%)							
1 新川		現況 報告	黒部市民病 院	(1283) 1211	(13.7) 14.3	(583) 536	(409) 392	(845) 850	(122) 137	(98) 83	(53) 47	(861) 556
2 富山	★	現況 報告	富山県立中 央病院	(4127) 3899	(23.1) 24.8	(2433) 2161	(1491) 1134	(1888) 1950	(611) 645	(150) 232	(23) 22	(1285) 1397
3 富山	◇	現況 報告	富山大学附 属病院	(3809) 4078	(28.1) 30.4	(1501) 1514	(1141) 1303	(1701) 1811	(391) 399	(93) 89	(12) 13	(983) 1221
4 高岡		新規 申請	厚生連高岡 病院	(2673) 3256	(21.6) 26.7	(1537) 1518	(776) 768	(1397) 1525	(316) 342	(87) 86	(38.2) 43	(194) 198
5 砺波		現況 報告	市立砺波総 合病院	(926) 869	(11.0) 11.3	(845) 633	(592) 591	(664) 612	(122) 128	(92) 108	(34) 34	(661) 778

富山県 令和元年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

④の病院は、高岡圏域内のがん患者の4割強を診療している。また、高岡医療圏と砺波医療圏を合わせた県西部において、最も多くの診療実績を有しており、県西部の中核病院となっている。

②の病院は、新川医療圏内の5割弱のがん患者を診療し、当該医療圏における中核病院として、同医療圏内のがん診療について中心的な役割を担う。

⑤の病院は、砺波医療圏内の3割強のがん患者を診療し、当該医療圏における中核病院として、同医療圏内のがん診療について中心的な役割を担う。

①の病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として拠点病院間連携の中心的な役割を担う。

③の病院は、特定機能病院として高度先端医療の提供やがん診療人材育成の拠点としての役割を担う。

- ① 県立中央病院★（現況）
- ② 黒部市民病院（現況）
- ③ 富山大学附属病院◇（現況）
- ④ 厚生連高岡病院（新規申請）
- ⑤ 市立砺波総合病院（現況）

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点(高度型)



富山県の指定推薦に関する考え方

資料5-1

本県では5つのがん診療連携拠点病院が、医療圏別又は圏域を超えて相互に連携し、県全体のがん医療の均てん化や、がん医療水準の強化に努めている。

基本的な考え方

全国より早く高齢化が進展する本県のがん罹患率は全国を上回って推移しており、今後のさらなる高齢化に伴い、がん患者、認知症を有するがん患者の増加が見込まれる中で、これまでと同様に、県民が安心して質の高いがん医療を受けられるようにするため、下記のとおり、本県の拠点病院がこれまで担ってきた役割を継続・強化する必要がある。

- ①手術、放射線治療及び薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療や各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等をごん患者の状態に応じて適切に施していくこと
- ②緩和ケアチームの介入によるがん患者の負担軽減
- ③医師・看護師等のがん専門人材の育成・医療安全に対応する人材の育成・配置
- ④高度な先端技術等を用いた治療やがんゲノム医療の実践に向けた取組みといった最新の医療技術への対応

県計画等における位置付け

本県では、がんの克服を疾病対策の重要課題と位置付け、国の「がん対策推進基本計画」に基づき、「富山県がん対策推進計画」を策定し、「予防の強化と早期発見の推進」「質の高い医療の確保」「患者支援の充実」の3つを重点課題として、総合的ながん対策を推進してきた。

現在の第3期計画においては、拠点病院が連携協力し、病院毎の特性を活かしながら、二次医療圏毎に、集学的医療、緩和ケア、在宅療養支援を提供できる体制を構築し、患者支援体制の充実及び県全体のがん医療水準のさらなる向上を図ることとしている。

今後の富山県のがん診療体制

都道府県がん診療連携拠点病院として県立中央病院が拠点病院間連携の中心的役割を担い、地域がん診療連携拠点病院（高度型）として富山大学附属病院、厚生連高岡病院、地域がん診療連携拠点病院として黒部市民病院、市立砺波総合病院の5病院からなるがん診療体制により、高齢社会に対応した包括的ながん診療を提供することで、県民が安心して質の高いがん医療が受けられる体制の充実に取り組む。

富山県のがん診療体制

質の高い医療の確保

資料5-2

